

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第21号

発行：平成22年9月 OSS・EPRグループ(指定管理者)

森の移り変わり

—平成22年度春～夏にかけての整備経過—

「はらっぱ広場」を新設

人の背丈を越えるほどのネザサに覆われていた昔の耕作地を整備し、「はらっぱ広場」(旧称ゾーン10)として開放しました。緩衝帯として広場と散策路の間のササを刈り残したり、草丈を高め管理するなど、生きものの生息場所として配慮した広場を目指しています。



▲はらっぱ広場。以前は一面、ササ敷でした。

「ヤマガラのみち」が開通

尾根みち～第二豊田川の河川管理道につながる3本目の園路が新設されました。ヤマガラ平から西のおじいさんの木を結ぶ

区間の開通により、散策時のコースバリエーションが増え、ふれあいの森をより楽しめるようになりました。



▲アカマツ再生区。下草が整備され、すっきりとした林床。

アカマツ林の復元 進む

「アカマツ再生区」では、腐葉土の除去や除間伐を行い、自然再生による林の復元を目指しています。整備を続けた結果、数株の実生が確認されました。今後もアカマツの生態に配慮した管理を継続し、アカマツ林の復元に取り組みます。



※堺自然ふれあいの森では、NPO法人いっちゃんクラブ・大阪府立大学・堺市・指定管理者の協働により森の整備方針を決定し、整備を進めています。

『私たちの暮らしと生物多様性フォーラム』開催

10月に愛知県で開催される生物多様性条約締約国会議に合わせ、生物多様性の理解と保全をテーマにしたフォーラムを9月20日に開催しました。

森の館では、「私たちが生物多様性の保全のために何ができるのか」をテーマにシンポジウムを行いました。まず、基調講演で身近に存在する生物多様性の繋がりについて理解を深め、その後、シャープ(株)・積水ハウス(株)・堺市の事例発表をもとに社会活動の担い手としての私たちの責任と課題を整理しました。



また、屋外では、自然観察会やプロジェクト・ワイルドを活用した生物多様性ゲームの体験、太陽光を利用するソーラークッカーの実演のほか、環境省とWWFジャパンの協力により生物多様性に関するパネル展を行いました。

「生物多様性体験ゲーム」の様子。野生動物になりきり、捕食者と被食者の役割について、学んでいます。▶



森林あそび

里山あそび

楽しく学べる体験がいっぱい!

堺自然ふれあいの森では、「森の学校」をテーマに公園の自然環境を生かしたイベントを数多く行っています。

より多くの市民の方が、自然や環境、里山文化について楽しみながら学べる機会を提供することにより、持続可能な社会の実現に寄与することを目指しています。

今回はそのようなイベントの一部をご紹介します。

※イベントには、指定管理者の専門スタッフが実施するものやNPO法人いっしょんクラブとの協働で実施するものなどがあります。

対象年齢で選ぶ

子どものペースに合わせてくださりよかったです。絵本の読み聞かせもステキでした。



▲1～3歳児対象。ゆったりと親子で森を楽しみます。

子どもの発育に合わせて、対象年齢を細分化することで、きめ細やかで充実した内容にしています。

親子で参加するものと子どもだけで参加するものがあります。

▼4才～小学2年生対象。いろいろな「初めて」に親子でチャレンジ!

親子で森あそび～おしおしタイム～



ネイチャーキッズ講座

▲小学3年生～中学生対象。子どもだけで、より活発な活動に取り組んでいます。

自然と触れ合う機会がだんだんと減っているのが、このような貴重なイベントをずっと続けてください。大人も少しだけ子どもに成れました!

講座で学んだことを帰ってから家で調べたりするなど、興味を持ってその後も役立てていました。

ステップアップ

さらに詳しく学びたい方や学ぶだけでなく、伝える側を目指す方を対象とした講座やワークショップも開催しています。



▲エコライフ講座。子どもから大人まで気軽に環境問題に取り組むきっかけ作りをしています。



▲里山ボランティア養成講座。主体的に里山の保全に関わる人材を育てています。



▲プロジェクト・ワイルド指導者養成講座。環境学習を指導する専門的な人材を育てています。

テーマで選ぶ

食

園内に自生する野草を食材や器として利用したり、焚き火で調理するなど自然を生かした活動を行っています。自然の恵みを実感!

▼ネザサでパン焼き。生地をネザサに巻きつけて、焚き火で焼きます。



ネザサなどの材料集めから始めることや生地を最初から作るのがいいですね。

ヨモギ摘みから食するまで体験できて、うれしかったです。



▲ヨモギ団子作り。春先に出る香りの良いヨモギの新芽を集めて作ります。

作

園内で採集した草花や木の葉のほか、森の整備で間伐した木を有効活用した工作をしています。自分で作った作品が一番!

普段、手に入らない材料や家ではできない体験ができるので、いつも楽しんでいます。



▲蜜ろうそく作り。ミツバチの巣材からできた糊を溶かして作ります。



いつもスタッフのオガがやさしくて、進行のスピードもほどよくてすごく参加しやすいです!

▲藍染体験。アイの生葉を摘み、手で揉んで染めます。

つな

繋

里山の風景を復元した田んぼや畑で苗の植え付けや収穫体験を行っています。生きるための術を体感できます。



田植え体験



ボランティアさんやスタッフのオガが、丁寧に教えてくれるので、とても助かります。



▲収穫後の藁を使って注連縄や藁ぞうりを作ります。こんな時は、年配のボランティアさんが大活躍。

観

観



子どもの質問にも、やさしく分かりやすく話してくれるので、うれしいです。



野鳥や昆虫など季節に合わせた生き物の観察会を行っています。今まで気がつかなかった自然の魅力に出会って、自然を観る目が変わるかも?!



▲野鳥観察会



コラム 「幼い子どもと自然」

井上 美智子 氏 (大阪大谷大学 教育福祉学部 教授)

海や山に行く気持ちがいいと思いませんか？ 大げさなお出かけでなくても、近くの公園や家庭菜園に行っても何となく心が解放されるはずです。この30年ほど自然が生理機能（血圧やホルモン分泌など）や心理機能に与える影響についての科学研究が進み、自然の中にいる方が病気やストレスからの回復が早かったり、攻撃的行動が少ないなどの報告がなされるようになってきました。これは子どもも同じで、自然の中で遊ぶと心が解放されます。ほかに、自然の中で遊ぶといろいろなことが育つといわれています。



まず、自然にあるものは多様性に富んでいます。だから、人工のものより自然物で遊ぶ方が子どもの想像力や創造力を育むのです。ただの枯れ枝が楽器やお箸になり、葉っぱがお皿になります。幼児はあるものを何か別のものに見立てる遊びをよくしますが、その時には想像力が働いているのです。見立てたものを使って何か遊びを考え出せば、遊びを創造する力が育ちます。大人からすればつまらない遊びに見えるのですが、子どもの場合はそうした遊びを繰り返すことで自ら学ぶ力や工夫する力が育つのです。



そして、幼い子どもは好奇心が旺盛です。この世界に生まれ出て数年しかたっていないので、多くのことが初めての経験であり、魅力があるからです。だから、歩いていても一つ一つの小さなもの・小さなことに気づいて足を止めます。それから、次の段階の「じっくり見てみよう」・「触ってみよう」に進みます。こうした行動の元になるのが好奇心です。「これは何だろう」・「どうしてこうなるのだろう」という疑問は、よく考えてみると学校での学習や大人になってからの仕事の中でも大切です。いろいろなことに疑問をもって勉強や仕事に向かう人の方が伸びていきます。「幼児期の好奇心を大切に」といわれるのは、それが将来のそうした力を育むことにつながるからです。

また、自然の中で遊ぶことで豊かな感性が育つともいわれます。例えば、同じ葉っぱでも、植物によって色や形、厚さが違い、香りも違います。同じ木についている葉っぱでも大きさはいろいろで、色も微妙に異なります。人工的なおもちゃでは経験できない豊かさです。そうした違いに気づいていくことで豊かな感性が育ちます。芸術家の自伝では、必ずといっていいほど幼少の頃に自然の中で遊んだ思い出が語られるそうです。彼らの豊かな感性は自然の中で育ったのかもしれませんが。

自然の中で子どもが遊んでいると、大人はつい「だめ！」「さっさと！」「汚い！」「危ない！」という言葉を使ってしまいます。しかし、自然の中で遊ぶことによって子どもに育つものを見ると、大人の使う言葉が想像力や好奇心、感性が育つ機会を子どもから奪っているといえるのではないのでしょうか（もちろん、本当に危ないときは言って下さい）。こうした言葉はぐっと我慢して、子どもの前ではなく後ろを、子どものペースに合わせて歩いてみて下さい。子どもが何かを見つけて「見て、見て」といったら、「わあ、すごい！」「ほんとだあ」「よく見つけたね」と子どもの言葉に共感しましょう。お母さんやお父さん、自分が信頼している大人が、自分の発見を認めてくれ、共感してくれることで、子どもは自分が愛されていることを感じとり、自信をつけていきます。



このように、幼い子どもが自然と関わるのが大切と言われるのには理由があり、また、大人の役割も大きいのです。大人の目に豊かな自然のある場所でもなくともかまいません。身近な公園などに子どもと一緒に出かけませんか。

交通案内



● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側2番のりば(南海バス)
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km
※日曜・祝日は、堺公園墓地 直行便有り
「堺市立霊堂前」下車 約500m

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km
公共サイン(案内板)を目印に お越しください。

●●●●● お問い合わせ・申込み先 ●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 OSS-EPRグループ(指定管理者)
※OSS-EPRグループは、大阪ガスコミュニケーションズ株式会社・株式会社生態計画研究所の連合体です。